

小林秀雄著『本居宣長』:各章主題の「関係論」的纏め

十六章 ①『源氏』論(物:場 c')②作者の『心ばへ』(物:場 c')③作品(物:場 c')④准據(物:場 c')⇒からの関係:⑦が①で採用した(D1の至大化)④は、「⑤:②の中で變質し、今度は間違いなく③を構成する要素と化した④だけ。このやり方は徹底的であつた」(D1の至大化)⇒「⑥:物語の准據」(⑤的概念F)⇒E:外部に見附かつた⑥を作者の心中に入れてみよ、その性質は一變する。作者の創作力の内に吸収され、言はば創作の動機としての意味合を帯びる」(⑥への距離獲得:Eの至大化)⇒⑦宣長(△粹):②への適應正常。

十七章

十八章

